

青少年の家について

資料 6

【設置目的】

青少年の健全な育成を図り、もって社会教育の振興に資するための施設として設置

香々地青少年の家（昭和48年8月開所） 九重青少年の家（昭和58年7月開所）



【施設概要】

宿泊室（定員：324人）
プラネタリウム館、食堂、
キャンプ場、プレイホール、
アスレチック広場、
海水浴場など

【施設概要】

宿泊室（定員：304人）
プラネタリウム館、食堂、
キャンプ場、プレイホール、
アスレチック広場、天体観測場、
多目的広場など

【青少年の家の機能】

学校支援機能	学校・学年・学級づくりに繋げる集団宿泊活動
調査研究機能	不登校・発達障がい等の課題に対応した体験プログラムの開発と提供
指導者養成機能	体験活動の指導方法やリスクマネジメントを学ぶ教員対象の研修
体験活動提供機能	児童・生徒の発達段階に応じた多様な自然体験活動の提供

【大分県行財政改革アクションプランでの位置付け】

指定管理者制度や民間委託の導入・拡大

学校支援機能の維持に配慮した上で、閑散期の施設の運営効率の改善やサービスの向上、維持管理費節減を目指し、指定管理者制度を含めた民間活力の導入を検討

【前回までの推進委員会での意見】

○広報の改善・工夫が必要

- ・シニア世代や大学生へ伝わるよう改善が必要
- ・こども園や少年スポーツクラブ、老人会等幅広く
- ・ネットやSNSの活用も必要
- ・他県と連携した広報が必要

○利用拡大について

- ・冬期の利用者数を増やす取組が必要
- ・教員研修の機会を増やすことが必要
- ・訪日する海外の生徒との交流ができる場に
- ・家族利用など広く地域に開かれた施設の姿が必要
- ・どのような冬場の活動ができるのか提示が必要

○計画に対する分析について

- ・成果と課題を委員会で報告

【昨年度以降の取組状況】

○広報について

- ・教育だよりおおいたやHP、SNSによる情報発信
- ・主催事業の早期案内
- ・ケーブルテレビによる主催事業案内
- ・九州内の大学等に案内書を郵送（県内は持参）

○利用拡大について

- ・4つの機能を強化し、利用拡大を目指した
 - 【学校支援】学校の教育目的に応じたプログラム提案
 - 【調査研究】市町村や大学と連携して不登校児童への自然体験活動を提供
 - 【指導者養成】教員や森林学習指導者向けの研修会実施
 - 【体験活動提供】シニア世代等を対象にした写真教室やノルディックウォーク、親子を対象として地域と連携した自然体験活動や天体観察会実施
- ・28年度の11月～3月の延べ利用者数は 5, 170人増加
(家族利用約1,000人、一般利用約1,400人増)
- ・29年度上半期の延べ利用者数は27年比 8,706人増加
(学校利用約140人、家族利用約360人増、一般利用約5,000人増)

1. 香々地青少年の家について

冬季利用者数 H27:6,005人 → H28:8,646人
 目標:対前年2,000人増 → 実績:2,641人増

(単位:人)

利用状況	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期計	合計
	27年度	4,082	2,889	3,186	5,992	4,156	2,467	22,772	1,893	966	1,380	1,854	665	1,140	7,898	30,670
	28年度	1,452	3,203	3,325	5,375	4,504	3,476	21,335	1,699	1,059	1,694	2,673	1,781	1,439	10,345	31,680
	H28-H27	▲2,630	314	139	▲617	348	1,009	▲1,437	▲194	93	314	819	1,116	299	2,447	1,010
	29年度	4,786	3,306	4,841	5,995	4,714	3,711	27,353	H29 年間目標利用者数 35,000人						0	27,353
	H29-H27	704	417	1,655	3	558	1,244	4,581							0	4,581

- ### 【28年度(下半期)】
- 広報活動の強化**
 - ・下半期事業のチラシを作成し学校等へ配付
 - 学校支援機能等の強化**
 - ・市町村の教育支援センターやフリースクールと連携した不登校対策事業を実施
参加者:70人(1泊2日3回)
 - 冬季利用増の取組**
 - ・ノルディック・ウォーク体験会(多世代対象)
参加者:179人(日帰り8回)
 - ・国東半島魅力発見写真塾(シニア世代対象)
参加者:102人(1泊2日3回)
 - ・ふたご座流星群星空観察会(親子対象)
参加者:136人(1泊2日1回)
 - ・星のお兄さん爆笑星座開設(親子対象)
参加者:95名(1回)

- ### 【29年度(上半期)】
- 広報活動の強化**
 - ・豊後高田市CATVでの事業広報実施
 - ・利用実績のない団体へチラシを配布
 - 学校支援等の機能の強化**
 - 【学校支援】学校の教育目的に応じたプログラム提案(83校)
 - 【調査研究】フリースクール等に通う子どもを対象に
大学等と連携して自然体験活動を実施
参加者:19人(1泊2日)
 - 【指導者養成】体験活動のリスクマネジメントに関する研修会実施
参加者:69人(教職員対象2回)
 - 多様な自然体験活動の提供(地域との連携、多世代対象)**
 - ・歴史博物館と連携した親子歴史学習と土器づくり体験
参加者:104人(1泊2日1回)
 - ・豊後高田市グリーンツーリズム推進協議会と連携した地引き網体験
参加者:512人(日帰り7回)
 - ・シニア世代を対象とした国東半島魅力発見写真塾
参加者:28人(1泊2日1回)
 - ・体験活動を提供する登録制のファミリークラブを毎月実施
参加者:748人(100家族登録)(1泊2日2回、日帰り7回)



- ### 課題と今後の取組内容
- 【課題】
- 広報活動の強化**
 - ・HP、SNSによる情報発信の不足
 - 様々な団体の利用拡大**
 - ・他施設との連携不足

- ### 【対応策】
- 広報活動の強化に向けて**
 - ・SNSを活用し、活動状況を発信すると共に、旬の情報提供を行う
 - ・映画のロケ地を積極的にアピール(アプリを使用した記念撮影)
 - 利用拡大に向けて**
 - ・農業公園を活用したノルディック・ウォーク体験会などを実施
 - ・かかぢフェスタなど、市や地域と連携した事業を実施すると共に観光協会と連携を模索
 - ・学びと健康の森を活用した冬季プログラムの新規開発(樹木の学習、週末スクール)



2. 九重青少年の家について

冬季利用者数 H27:9,758人 → H28:12,287人
 目標:対前年1,600人増 → 実績:2,529人増

(単位:人)

利用状況	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期計	合計	
	27年度	7,048	5,469	3,270	6,710	6,776	4,892	34,165	2,684	1,243	2,032	2,593	2,070	1,820	12,442	46,607	
	28年度	2,620	2,061	2,273	6,070	6,528	3,624	23,176	2,483	2,064	2,562	2,930	2,337	2,394	14,770	37,946	
	H28-H27	▲4,428	▲3,408	▲997	▲640	▲248	▲1,268	▲10,989	▲201	821	530	337	267	574	2,328	▲8,661	
	29年度	8,318	6,557	3,536	7,134	7,576	5,169	38,290	H29年間目標利用者数 48,000人							0	38,290
	H29-H27	1,270	1,088	266	424	800	277	4,125								0	4,125

取組内容

【28年度(下半期)】

- 広報活動の強化**
 - ・下半期事業のチラシを作成し学校等へ配付
- 学校支援機能等の強化**
 - ・不登校傾向の児童生徒を対象にふれあいキャンプ(自然体験活動)を実施
参加者:52人(1泊2日2回)
- 冬季利用増の取組**
 - ・チャレンジ!雪ん子スノーパレード
参加者:372人(2泊3日)
 - ・親子ネイチャートレッキング(親子対象)
参加者:37人(日帰り1回)
 - ・親子スキーチャレンジ(親子対象)
参加者:38人(1泊2日1回)
 - ・ここのえ親子スターナイトツアー(親子対象)
参加者:55人(日帰り、1泊2日)
 - ・プラネタリウム上映会(多世代対象)
参加者:97人(日帰り3回)

【29年度(上半期)】

- 広報活動の強化**
 - ・九州内の大学、専門学校へチラシを郵送(465団体)
 - ・高地にある地域性を活かした部活動・サークル活動の誘致
- 学校支援等の機能の強化**
 - 【学校支援】学校の教育目的に応じたプログラム提案(87校)
 - 【調査研究】九州初!ネット依存者を対象に医師や大学と連携した自然体験活動を実施
参加者:8人(1泊2日)
 - 【指導者養成】採用1年目の教員へ体験活動の理論と実践を指導
参加者:293人
- 多様な自然体験活動の提供(地域との連携、多世代対象)**
 - ・九重ふるさと自然学校と連携したどろんこ田んぼあそび体験
参加者:26人(日帰り1回)
 - ・くじゅうネイチャーガイドクラブと連携した親子くじゅう登山体験
参加者:46人(1泊2日1回)
 - ・県立図書館と連携した“ブックルーム”を開催(子ども司書が選書)
参加者:86人(1泊2日1回)
 - ・森林環境指導者による親子環境学習
参加者:67人(1泊2日1回)

ネット依存者に集団合宿・体験活動を提供



地域と連携したどろんこ田んぼ遊び



全国初!“ブックルーム”に家族で宿泊

課題と今後の取組内容

【課題】

- 広報活動の強化**
 - ・HP、SNSによる情報発信の不足
- 様々な団体の利用拡大**
 - ・他施設との連携不足

【対応策】

- 広報活動の強化に向けて**
 - ・SNSを活用し、活動状況を発信すると共に、旬の情報提供を行う
 - ・他県施設と相互連携した広報の実施
- 利用拡大に向けて**
 - ・ネイチャートレッキングや天体望遠鏡を活用したスターナイトツアーなどを実施
 - ・ここのえオープンデー等、町や地域と連携した事業を実施すると共に他施設と連携を模索
 - ・冬のくじゅうの自然をテーマに野外プログラムの新規開発(雪山登山講座、野外泊講座)

ここのえオープンデー乗馬体験

